

伴走支援、「信用保証協会の格差是正」が最優先課題

多胡秀人

2022/4/20

ゼロゼロ融資などのコロナ対応制度融資に関わる約定返済がいよいよ本格化します。

莫大な額のコロナ融資がもたらした中小小規模事業者の過剰債務問題への対策が待ったなしですが、現場の声を反映した、地に足のついた議論が求められます。

中小小規模事業者の経営改善/再生支援の専門家の話を聞くと、BSの抜本改善まで踏み込まねばならないケースは、一握りに過ぎないようです。

9割以上の小規模事業者については、「キャッシュフローが見込めるものに着目し、BS毀損は我慢しても、少しずつでも粘り強く利益を積み上げ、長期戦覚悟で事業存続を図ることが大切」というのが、この道のプロフェッショナルたちの意見です。

小規模事業者の経営改善/事業再生支援の分野における先駆者で、ワタシがいつも教えを乞うているX氏も次のように言っています。

「小規模事業者の抜本的再生は現実的ではなく、債務超過であってもそれなりの利益が出てくることで事業存続できれば、十分に地域にとって意味があると思う。」

債務償還年数ありきの金融検査マニュアルの呪縛のもとでは、なかなかできないことでしたが、今やそこからは解き放たれています。

今回の「中小企業活性化パッケージ」において、早期の債務超過(BS 毀損に他ならない)の解消を常に重要視してきた「中小企業再生支援協議会」を関連機関と統合し、「中小企業活性化協議会」と名称変更して、収益力改善を担わせようというのも、この流れに沿ったものと思います。

BS 毀損を我慢しつつ PL 改善を粛々と進める長期戦は「伴走支援」そのものです。

「伴走支援」の担い手としては、地域金融機関や信用保証協会やよろず支援拠点など中小規模事業者の支援組織などが挙げられます。

ただ、日常の接点があり、事業実態や経営者の人となりを熟知し、信頼関係がないと「伴走支援」は難しいです。

とくに、地域金融機関は昨今、事業者との関係が希薄化しているのが気になります。

そうなると小規模事業者向けの伴走支援は、ゼロゼロ融資等で「実質的に地域最大の信用リスクを抱える」ことになった信用保証協会が必然的にメインプレーヤーとなると思います。

信用保証協会の伴走型経営支援には大きな課題があります。地域差が大きいことです。

信用保証協会の経営支援は平成30年の制度改革でメインビジネスと位置付けられています。さらにコロナ禍により経営支援機能が発揮される御膳立てが揃っているのですが、此の期に及んでも当事者意識の低い(標榜しても実効性が見えない)信用保証協会が多数派なことは驚き以外の何者でもありません。

このようなレイジー保証協会の底上げこそが、中小企業活性化のために直ちにやるべきことではないでしょうか。

(了)

※※※※本稿の無断転載、お断りします※※※※※